

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

【事業所概要（事業所記六）】			
事業所番号	0572709566		
法人名	有限会社　はる風		
事業所名	大森ケア・コミュニティー　はる風		
所在地	秋田県横手市大森町菅生田245番地226号		
自己評価作成日	平成30年11月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	平成30年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然にめぐまれ、四季を感じることができます。その環境を活かし、活動や行事を通して、一人ひとりが穏やかに安心して生活できるようにと取り組んでいます。また、近くには病院もあり、協力医院の往診、緊急時の対応等、医療面においても安心して生活ができる環境にあると思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員の補充が難しい状況が続いたこともあって職員のペースになりがちではあったものの、徐々に解消されてきており、利用者主体の支援ができるよう努めています。居室の家具は固定されており、車椅子仕様の洗面台が設置されて利用者の身体機能に対応でき、安全でできる限り自立した生活が送れるようにするための工夫や設備があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえ、ミーティング等を通して、理念を共有し、日々のケアに活かしていけるように取り組んでいる。	利用者との日々の暮らしが理念に沿った支援となるよう取り組んでおり、新任職員にも伝えられています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的とはいえないが、地域の行事などに参加させていただいたりしながら交流の機会を持てるように意識している。	ホームの立地環境から地域との交流が図りにくいことはありますが、町内会長から情報を得たり、行事を通じて交流できるよう取り組んでいます。		
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	広報等にて情報を発信したり、福祉体験などの受け入れをおこないながら、少しでも地域への貢献につなげていけるように取り組んでいる。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的な会議のなかで、ホームの現状報告や意見交換をおこない、サービス向上に活かしていけるように努めている。	行政、町内会長、民生委員、家族が参加してそれぞれの立場から意見を出していただき、サービスに活かせるよう努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員の定期訪問や事業所の実情、また、制度等での相談助言などをいただいたりと協力関係を築くように取り組んでいる。	職員不足から地域ケア会議に参加することができない状況が続いておりましたが、運営推進会議や介護相談員を通じて情報を収集しています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会やミーティング等を通して、正しく理解できるように努め、日々のケアに取り組んでいる。	ミーティングで毎回取り上げ、身体拘束をしないケアを職員の共通認識として取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会等にて高齢者の虐待防止について理解を深め、職員間での情報交換、ミーティング等の機会に話あいながら防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在のところ活用の必要性のあるかたはいないが、研修等など学ぶ機会を持てるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する不安や疑問点など、利用者や家族等に説明をおこない理解・納得をはかれるように努めている。改定等の際も通知や説明等もおこない理解や納得がはかれるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会等にこられた時など、気軽に話ができる環境づくりに努めている。意見等についてはミーティング等を通じて職員に伝えられる機会を設けている。	面会時等に出された要望については対応が可能かどうか検討し、理解が得られるように説明しています。情報は職員間の連絡ノートで共有しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング等などで意見や提案を聞く機会を設け、運営に関して反映できるように努めている。	ミーティングや業務の中で出された職員の意見が反映できるように努めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスなどの作成、給与等の明確化をおこない、勤務状況などを把握しながら、職場環境・条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会などに参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム情報交換会組織の中で職場交流などを通じて、交流の機会をつくり、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接のときなど本人との会話の中で、困っていることと不安なことなどを聞きながら、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時等に時間をかけて困っていることや不安なことなどを聞きながら、関係作りに努めている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活のなかで、作業を一緒におこなったり、会話をしたりしながら、常に寄り添うような気持ちで、支えあえる関係を築けるように努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方にも行事等にも参加していただいたり、日々の状況など手紙などで伝えたりしながら家族等ともコミュニケーションをはかり、共に支えていけるように努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら、馴染みの人や場所にでかけたり、また、来訪していただいたりと関係が途切れないような支援に努めている。すべての利用者に支援できているわけではない。	友人が面会に来てくれたり、子ども達が交替で電話や面会をしてくれている方もおります。家族の協力が得られることをお願いし、できる限り関わりを持っていただけるように取り組んでいます。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活のなかで、共同で作業をおこなったり、会話の機会などかわりあいがあるように支援している。一人ひとりの個性や身体状況も考慮しながら支えあえるように支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要性のあるケースについては、継続的なかわりを持ち、相談や支援に努めるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望、意向の把握に努め、職員間でも情報を共有しながら、本人の思いに添えるような支援ができるように努めている。	利用者の日常を観察して心身の状態を把握し、家族に確認したりしながら一人ひとりの思いに沿えるよう努めています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から話をききながら、情報を共有して暮らし方、生活環境、これまでの経過等の把握に努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの様子観察をしながら、職員間で情報を共有し、現状の把握に努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族とも話し合い、意見や要望をきき、職員のミーティング等で意見を出しながら、介護計画を作成するように努めている。	ミーティングの中で職員から話を聞き、計画作成担当が介護計画を作成しています。	記録を参考にしてモニタリングや介護計画の見直しができるように心身の状態把握や介護計画に沿った記録の工夫を期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の申し送りやミーティング等、また、職員間の連絡ノートなどを活用しながら情報の共有をはかり、実践や介護計画の見直しに活かすように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて地域資源を活用し、安全で豊かな暮らしができるように努めている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医、歯科医、薬局等と事業所の関係も築きながら適切な医療が受けられよう支援している。	希望に沿って対応しており、かかりつけ医の訪問診療も行なわれています。薬局からは処方薬を届けていただく等の協力が得られています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内には看護師がいないため、病院や協力医院の看護師の方などに相談しながら、個々の利用者が適切な受診等が受けられるように支援している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院のケースワーカーとの情報交換、相談等連絡を密にしながら支援できるように努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人の状態をみながら、事業所でできることを家族等と話し合い、説明しながら家族等やかかりつけ医と相談し方針を共有するようにしている。	終末期には対応しておりません。家族にはその旨を説明しており、ホームでお世話ができなかった時には次の支援に繋がっています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル等の作成はおこなっているが、実践訓練を定期的に行うことはできていない。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の機会を通して、職員が避難誘導の方法を身につけられるように努めている。また、地域の町内会長、民生委員などの方々にも話し合いの機会に協力していただけるよう働きかけおこなっている。	非常口には広くスロープが設けられ、冬季は雪寄せして避難経路を確保しています。災害時の協力員を周辺の地域に設定していますが、訓練は当日出勤している職員と利用者として夜間を想定して行っています。	地域の協力員も参加した避難訓練の実施に向けた取り組みを期待します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等を通して、一人ひとりの言葉かけや対応について話し合い、支援するように努めている。	言葉遣いやプライバシーに配慮し、特にトイレ介助の際の対応には気を付けています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を表せるような言葉かけの工夫や自己決定ができるように努めている。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしながら、希望に沿った支援ができるように努めている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	家族にも協力していただきながら、洋服や髪型など本人の希望に添えるように支援している。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みなどを把握し、食事の状況などを確認し、食形態の工夫をしたりしながら支援に努めている。	畑で採れた野菜や職員が持ち寄ったものが食卓に並び、季節の行事ではお弁当を手配して利用者に喜ばれています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分の摂取状況など確認しながら、一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力に応じて口腔ケアの支援をおこなっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表などを活用し、一人ひとりの排泄パターンをつかみながら、言葉かけや誘導をおこない排泄についての支援をおこなっている。	トイレでの排泄を基本に支援しています。チェック表を活用し、失敗の軽減に努めています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表などを活用し、飲食物の工夫など一人ひとりに応じた予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの健康状態やタイミングにあわせた入浴の支援に努めているが、希望の時間に応じての支援はできていない。	1人ひとりの健康状態やその人なりの好みに合わせて週2～3回入浴できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援に努めている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての理解を深め、服薬の支援や症状等の変化について確認に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの力を活かした役割、行事等やドライブなどの楽しみごと、気分転換等の支援に努めている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の協力をえながら、外出の支援に努めている。日常的にも戸外にでかけられるよう支援に努めているが、すべての方にできているとはいえない。	車椅子の利用者も外気に触れることができるように積極的に外出支援に取り組み、外出を楽しむことができます。玄関前での日光浴や散策等をしてホームに閉じこもらない支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの持てる力に応じて、支援するように努めている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙や電話などは本人の希望があれば対応するように努めている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光の調整や室内の温度などに配慮し、季節を感じられるような飾りつけなど、居心地よく過ごせるように努めている。	湿度計で確認しながら乾燥対策をし、安全に通行できるように通路に障害物を置かないように気をつけています。利用者が描いた絵が飾られた廊下は十分な広さがあり、ホールに畳スペースが設けられていることで家庭的な雰囲気が感じられます。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ひとりでも、利用者同士でもホールや居室など思い思いに過ごせるような居場所づくりを工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族とも相談しながら、使いなれたものや家族の写真などを飾ったりしながら、居心地よく過ごせるように工夫している。	家具には転倒防止の固定がされ、車椅子仕様の洗面台が設置されて安心して暮らせる環境づくりが行われています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や共有の場所の確認や整理整頓をしながら安全な環境づくりに努めている。		